



「茨城県立歴史館」の敷地内にある「旧水海道小学校」本館は、水海道市（現・常総市）に「町民有志の寄付により建てられたものを明治10年代の移築復元。遺構として注目されている。



日本三名園のひとつに数えられる「梅園」は、徳川齊昭設計の「好文亭」や茶の湯に用いた「時玉煎」などが残る。



「レストラン イイジマ」では、常陸牛やロースボークなど、厳選された食材による、茨城の美味を堪能できる。



さまざまな和洋菓子を使う「亀じるし本店」MAP4。銘菓「水戸の梅」は、古文書をもとに生み出された水戸を代表する名品として知られている。

れた。けれども時代は水戸徳川家の遺伝子が必要としており、斉昭の七男で一橋家へ養子に出ていた慶喜が家茂死去の跡を継いで征夷大将軍に就任。才気煥発なこの。最後の將軍。は意表をうけて大政奉還を上表、勅許されて新国家体制を画したがこれは失敗。鳥羽伏見の戦いにも敗れて江戸城に戻った後、上野「寛永寺」に籠り、江戸開城と同時に少年時代を過ごした水戸に退いて謹慎したのが、「至善堂」だった。いまでも春になれば梅の香る座敷は慶喜が起居した当時のままで、庭先からその室内を覗くことができる。

所とある。シンボルのアトタワワーは金属の正四面体を組合せた、らせん状の塔で、市制百年を記念して高さ100メートル。どこからもよく見え、朝夕の光を映して美しい。低区配水塔に次ぐ次世代の水戸のランドマークだ。国道50号線に出るとすぐに出合う「三菱東京UFJ銀行水戸支店」の建物は「旧川崎銀行水戸支店」のもので、いまは目立たないが1909年（明治42）にこの地に出現した時は、ルネサンス様式の格調ある姿がどんなに目立っていたことかと思う。川崎銀行の創始者、川崎八右衛門は水戸藩の勘定方から身を起して維新後、川崎財閥を築いた人なので、東京・日本橋の本店と同じ格調を水戸支店にも求めたといわれ、設計も本店と同じ新築である。大工町の交差点を右折、国道118号線と合流して約200メートル先で左折すると「旧茨城県立水戸商業学校

Walking in Japan, vol.08 to Ibaraki

本館」（玄関部分）のピンクの建物が目えてくる。学校にしては華やか過ぎると思われるこの建物だが、1904年（明治37）に当時、茨城県警備技師だった駒村勤治が設計し、木造石張りという仕様で建てられた。駒村は設計に当たって、「ベルサイユ宮殿」を模したと伝わる。駒村は東京帝国大学工科大学卒業後あえて地方官庁の官舎に身を置き、その2年余りの間に学校や警察署など県の公共建築を独自の作風で多数残した。この校舎もいま見れば明治の香りが強いが、当時は教育の場に新風を吹き込む建物だったかと思う。

く張り出した玄関ポーチと2階のバルコニー、八角形の太鼓棧が、見る者を驚かす。古典様式ではなく禅宗寺院のような列柱、軒下の瑞雲、中国風の鼓棧屋根などいま見れば珍奇であっても、1881年（明治14）にこれを建てた棟梁・羽田甚蔵は西洋風の学校を目指して図面を引き、文明開化が叫ばれる時代の要請にこたえたのだ。下見板張りペンキ塗の外壁は当初は漆喰塗だったそう、2度の移築を経て板張りになった。歴史館にはほかに「旧水戸農業高等学校本館（復元）」「旧茂木家住宅」「水車小屋」などが移築されている。日本三名園のひとつ、また梅の名所としても有名な「偕楽園」が水戸建築散策のゴールなので、同園をつくった徳川齊昭が建設地から建築意匠まで白らきめたという「好文亭」（木造2層3階建本体と平屋奥御殿、戦災焼失後復元）を見学して散策を終わる。

【 掲載店インフォメーション 】

map 1 泊まる

ホテルテラス ザ ガーデン 水戸 シンプル & モダンな 隠れ家的ホテル。

デザイン性と機能性を追求したシンプル&モダンな設計で、旅慣れた人たちに支持される隠れ家的ホテル。地元ではブライダル会場としても人気を集め、コンセプトの異なる複数のバンケットホールを有する。また「トラットリア・イル・パンカレ」では、地元のオーガニック野菜をふんだんに取り入れたイタリアンベースの創作料理が供され、地元マダムたちの評価も高い。



住所 水戸市宮町1-7 電話 029-300-2500 宿泊料金/ デラックスシングルルーム 16,400円(1室2名利用時のおひとり様料金、税・サ込)~ほか。 備考 各種プランあり。

map 2 食べる

山翠 郷土料理店が伝える 昔ながらの味わい。

茨城屈指の名店として、県内外から多くの人々が訪れる。名物〈あんこう鍋〉は、舌子夜鍋（どぶ汁）の味わいを最大限に残すべく、秘伝の焼きみそで味つけ。焼きみその濃厚な味わいとあんこうの淡泊さが絶妙に調和し、秋から早春にかけての水戸の風物詩として人々を魅了する。ほかにも奥久慈しゃもを用いた料理や、創業以来の伝統の味である釜飯など、絶品メニューが並び、



住所 水戸市泉町2-2-40 電話 029-221-3617 営業時間 11:00~14:30、17:00~L.O.21:00 (土・日曜、祝日のディナータイムは16:30~) 休業日/火曜 備考/〈あんこう鍋〉1人前 3,570円ほか。

map 3 食べる

レストラン イイジマ 精肉店直営の 厳選食材に舌鼓。

1963年（昭和38）創業の「肉のイイジマ」直営の洋食レストラン。茨城を代表するプレミアム食材「常陸牛」や、同じく茨城産の銘柄豚肉として注目を集める「ローズボーク」など、上質な食肉を厳選使用。サーロインやフィレステーキをはじめ、ハンバーグやカレー、すきやきにしゃぶしゃぶといった豊富なメニューを取りそろえ、地元では3世代にわたって親しまれている。



住所 水戸市見和2-251-10 電話 029-252-8115 営業時間 11:00~L.O.14:30、17:00~L.O.21:00 休業日/不定休 備考/〈常陸牛サーロインセット〉(150g) 6,500円ほか。

map 4 買う

亀じるし本店 郷土色豊かな 銘菓がそろった名店。

1852年（嘉永5）に梅干しの製造を主とする漬物商として創業。明治に入り、郷土色を生かした菓子の製造販売に着手すると、水戸藩の記録に基づき、焼いた白餡を紫蘇の葉にくるんだ銘菓を考案し、現在「水戸の梅」として当地の名産品に。その後も地元産の栗や芋、納豆などを用いたアイデア菓子を次々に発表。水戸のお土産品として多くの人に喜ばれている。



住所 水戸市見川町2139-5 電話 029-305-0310 営業時間 9:00~19:00 休業日/無休 備考/〈水戸の梅〉8個入り 735円ほか。

【 周辺立ち寄りポイント 】

茨城県立歴史館 住所 水戸市緑町2-1-15 電話 029-225-4425 開館時間 9:30~17:00 (入館は16:30まで) 休館日 月曜(祝日の場合は翌日) 入館料 一般150円 (特別観覧は580円) ※高校生以下、満70才以上は無料 備考 庭園(旧水海道小学校本館、旧茂木家住宅)の見学は無料。

水戸八幡宮 住所 水戸市八幡町8-54 電話 029-226-8854 備考 境内自由に拝観可。



弘道館 住所 水戸市三の丸1-6-29 電話 029-231-4725 開館時間 9:00~17:00 (10/1~2/19は16:30) 休館日 12/29~31 備考/東日本大震災により、現在部分公開中。庭園のみの公開のため、観覧料無料。



茨城県三の丸庁舎 (旧茨城県庁本庁舎) 住所 水戸市三の丸1-5-38 備考 内部見学不可

偕楽園 住所 水戸市常盤町1-3-3 電話 029-244-5154 (偕楽園公園センター) 開園時間 6:00~19:00 (10/1~2/19は7:00~18:00) 休園日 無休 観覧料/無料(好文亭は190円) 備考 2月7日全面復旧。梅まつり開催中(〜3月31日)。期間中、夜間ライトアップあり。



水戸へのアクセス

- ▶▶▶ 電車 JR上野駅より特急「スーパーひたち」が「フレッシュひたち」でJR水戸駅まで約70分。
▶▶▶ 自動車 常磐自動車道・水戸IC下車、市内中心部まで約20分。

